

あなたのまちの

# 『民生委員・児童委員』

## 民生委員制度とは？

平成29年に創設100周年を迎える歴史と実績のある制度です。民生委員制度は、大正6年に岡山県で発足した「済世顧問制度」をもとに始まりました(下記「豆知識」参照)。大正7年には、大阪府で「方面委員制度」という同様の制度が発足し、昭和3年に、全国に普及しました。

## 民生委員・児童委員とは？

地域住民の立場に立って地域の福祉を担うボランティアです。民生委員は、民生委員法に基づき、厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員です。また、民生委員は児童福祉法に定める児童委員を兼ねています。民生委員の任期は3年です。ボランティアとして活動するため給与はありません。ただし、活動に必要な経費は支給されます。

## 富士市には何人の民生委員・児童委員がいるの？

富士市では、現在約400人の民生委員・児童委員が活動しています。全国共通の制度として、国民全てが民生委員・児童委員の相談や支援を受けられるように、厚生労働大臣が定めた基準を踏まえ、市町村ごとに定数が定められています。

## 民生委員・児童委員と主任児童委員の役割は？

民生委員・児童委員の役割は、地域住民の身近な相談相手です。また、専門機関へのつなぎ役にもなります。

## 民生委員・児童委員

みずからも地域住民の一員として、担当の区域で高齢者や障害者の安否確認や見守り、子どもたちへの声かけなどを行っています。医療や介護の悩み、妊娠や子育ての不安、失業や経済的困窮による生活上の心配ごとなど、さまざまな相談に応じます。相談内容に応じて必要な支援が受けられるよう、地域の専門機関へのつなぎ役になります。



イラスト：政府広報オンライン

民生委員・児童委員には、法に基づく守秘義務があり、相談内容の秘密は守られます。

## 主任児童委員

子どもや子育てに関する支援を専門に担当する民生委員・児童委員です。主任児童委員は、子育てを社会全体で支え、健やかに子どもを産み育てる環境づくりを進めるために、平成6年1月に制度化されました。担当地区で、民生委員・児童委員と連携しながら子育ての支援や児童健全育成活動などに取り組んでいます。

## 豆知識

「民生児童委員の父」と呼ばれている「笠井信一さん」。実は、富士市出身です。



笠井 信一さん  
(1864年-1929年)

### 【笠井信一さんと民生委員制度】

#### ◆富士郡蓼原村で生まれる

笠井信一さんは、元治元年(1864年)6月19日、富士郡蓼原村に生まれました。

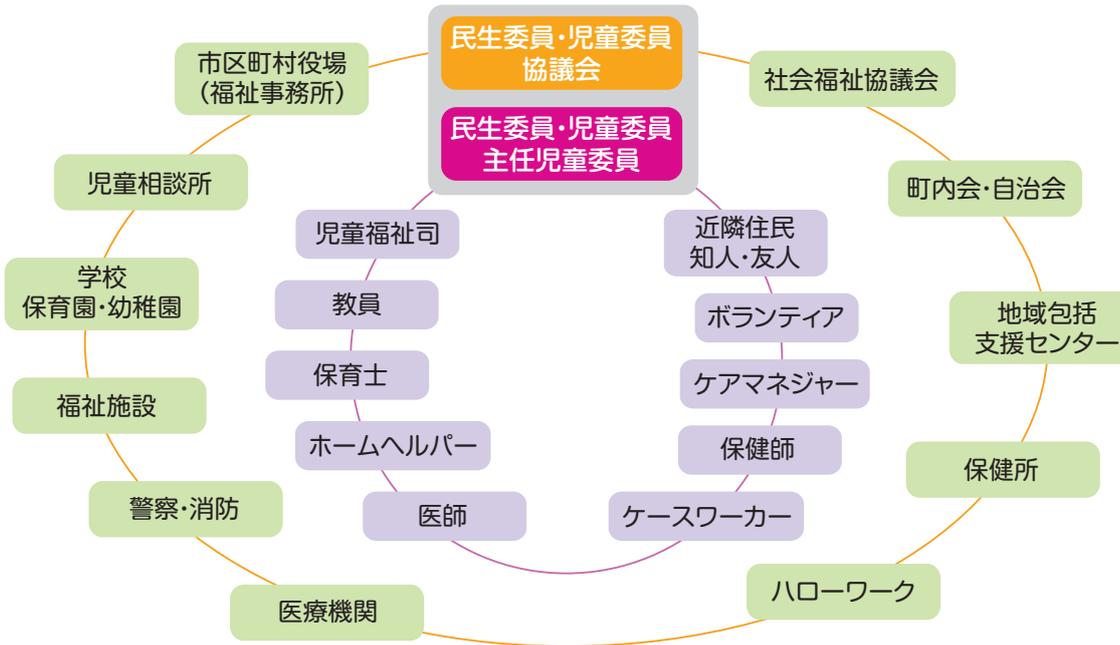
笠井さんは、蓼原村の三ツ舎(現在の富士第一小学校)で学んだ後、旧制静岡中学校、東京第一高等学校を卒業し、東京帝国大学(現在の東京大学)英法科に入学。明治25年に卒業後、内務省に入り、人々の生活にかかわる仕事に夢中で取り組みました。

#### ◆県知事を歴任

明治41年、笠井さんは、全国の知事の中で最も若くして、岩手県知事に任命されました。

# 地域住民を見守り、支えるネットワーク

「民生委員・児童委員」が連携・協働する関係機関と専門職



民生委員・児童委員は、地域におけるつなぎ役  
地域の「絆づくり」を進めています



## 信頼関係が大切

民生委員・児童委員は、「隣人愛」を持って、社会福祉の向上のため活動しています。住民が抱える生活課題を受けとめ、行政や専門機関と協働して、「心のよりどころ」になる生活支援ができるよう心がけています。また、活動する上では、自然体の優しさが大切だと感じています。

民生委員・児童委員の訪問活動は大切ですが、悩みを抱える方に最初に気づくことができるのは、ご近所の方です。ご近所の方の情報から支援につながることもよくありますよ。つなぐ思いやりの心「絆」が大切です。

口ごとの何気ない会話を大切に、何かあれば、お互いに気づいてあげられるような地域社会であるといいですね。



富士市 民生委員・児童委員協議会 会長  
三宅 幸三さん (横割 6)

## 問い合わせ 福祉総務課

☎ (05) 2211-5111 ☎ (05) 2220-0000  
✉ fu-fukushisoumu@div.city.fuji.shizuoka.jp

その後、大正2年に静岡県知事、大正3年に岡山県知事に就任しました。

## ◆大正天皇からのご質問

岡山県知事を務めていた大正5年、宮中で行われた地方長官会議で、大正天皇から笠井さんにご質問がありました。それは、「県内で生活に困っている人はどのくらいいて、その人々が身を立てるようにするにはどのようにしたらよいか」という内容でした。岡山に帰った笠井さんは、すぐに生活に困っている人々の調査をしました。すると、県民の約1割の人がとても生活に困っていることがわかり、笠井さんは大変驚きました。また、生活に困る原因には、体が不自由なことや、働くための仕事がないことなど、いろいろな理由があることがわかりました。笠井さんは真剣に悩み、その人々を救うにはどうしたらよいか考え続けました。

## ◆済世顧問制度をつくる

その結果、行政だけではなく、それぞれのまちに住み、思いやりがあり、社会奉仕の心を持った人たちと協力して、生活に困っている人の手助けをすることが必要だと考えました。これが現在の民生委員制度のもとになる「済世顧問制度」です。

その後、笠井さんは北海道庁長官や勅撰貴族院議員を務めるなど活躍しましたが、昭和4年に病気のため、66歳の生涯を閉じました。今ではその功績をたたえ、笠井さんは「民生児童委員の父」と呼ばれています。